

研究主題「互いの個性や多様性を認め合い、希望をもって

よりよく生きようとする生徒の育成」

～「考え、議論する道徳」の実践を通して～

ふじみ野市立葦原中学校

1 研究主題の設定理由

本校は、『時を守り・場を清め・礼を尽くす温かな葦原中学校』を目指し、信頼関係を基盤とした指導で教育活動を行っている。「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」となり、毎時間の授業を大切にして、実践を積み重ねている。多くの生徒は、学校生活に前向きに取り組み、日々充実感を覚えている。しかし、学年が上がるにつれて不登校生徒が増加する傾向にある。これらの背景の一つとして、SNSの普及やコロナ禍における人間関係の複雑化を背景とし、自分の考えあるいは生き方そのものを肯定できない生徒が増加していることが考えられる。そこで、道徳科の授業を通じて「考え、議論する」ことで自他の考え方や生き方の違いに触れ、互いの個性や多様性を認め合う中で、よりよく生きようとする道徳的実践意欲を高めていこうとする生徒の育成をねらいとして本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 自分との対話を通して自身の考えをまとめる機会を確保し、話し合いの形態を工夫すれば、道徳的価値について考え、議論が深まっていくだろう。
- (2) 話し合った多角的な見方や考え方を受け、振り返りの際に自他の共通点や相違を考えさせれば、互いの個性や多様性を認め合う態度が育つだろう。

3 研究の経過

時 期	内 容
令和6年 4～5月 6月6日	・道徳アンケートの実施・分析 ・校内授業研究会 〈指導者〉 聖徳大学名誉教授 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 埼玉県教育局西部教育事務所 指導主事
8月23日	・令和6年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校事前職員研修 (1学期の授業実践を踏まえて実施) 〈指導者〉 聖徳大学名誉教授 埼玉県教育局西部教育事務所 指導主事

〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

11月19日	・令和5・6年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校研究発表会 〈指導者〉 - 聖徳大学名誉教授 - 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 - 埼玉県教育局西部教育事務所 指導主事 - ふじみ野市立福岡小学校 校長 - 所沢市立東所沢小学校 校長
令和7年 1～2月 3月	・道徳アンケートの実施・分析 ・研究の成果と課題の確認及び実績報告書の作成

4 研究の内容

「彩の国の道徳」について、各学年で年間指導計画の中に位置づけて活用を図る。また、学校だよりなどを通じて、保護者や地域に対し「彩の国の道徳」を活用した授業について理解が深まるように情報を発信する。仮説に迫る手立てとして、ICT機器や意見共有機能を使った話し合いを日々の実践に取り入れていく。また、振り返りの際に自他の考えの共通点や相異点について触れるよう授業構成を改善する。令和6年5月と令和7年1月に道徳アンケートを実施し、規律ある態度や非認知能力の育成を視野に入れ、埼玉県学力・学習状況調査に係る「相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができていますか」や「先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができますか」という項目を中心に、生徒の意識がどのように変容したかを分析する。

(1) 「考え・議論する」道徳の実践

「話し合い活動」を充実させるために、以下の取組を実践した。

- ① 発問を精査し、「何を」考えさせたいのか明確にする。
- ② 「〇〇とはどのようなことだろう。」「〇〇はなぜ大切なのだろう」という「道徳的価値の理解を深める発問」をする。
- ③ 「これまで、どうだったのか。」「これから、どうしたいのか。」という「道徳的価値の理解を基に自己を見つめる発問」をする。
- ④ 話し合い活動の形態を、4名もしくは6名とする。

(2) 「特別の教科 道徳科」の工夫

- ① 道徳科の時間の「ルール」を共通化する。
- ② 教職員と全生徒の関係をつくるため、「ローテーション道徳」を実施した。
- ③ 教職員の「強み（得意・経験等）」を活かすため TT（チームティーチング）を実施した。
- ④ ICT機器等を活用し、「話し合い活動」の後に AI の考え方を提示。より多角的な視点に触れるとともに、人間ならではの道徳的価値に対する考え方や感じ方

〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

に気づけるようにした。

(3) 家庭・地域社会との連携

「話し合い活動」に、保護者や地域の方々、学校運営協議会委員にも参加を依頼し、様々な世代の視点や意見をもとに、『『考え・議論する』道徳』をより良いものにしようと試みた。

① 実施に向けた事前準備として以下の取組を実施した。

(ア) 事前に、学級通信。学校運営協議会、PTA 本部役員会等で案内

(イ) 15～20名程度が参加希望

(ウ) 各班に2～3名程度の保護者や地域の方々が入る。

(エ) 「話し合い活動」の際は、生徒→保護者・地域の方々の順で話し合う。

② 生徒(○)・保護者等(◎)の感想

○ 保護者や地域の方々の意見を聞き、そのような考え方もあるなと思いました。

○ 生命の大切さについて、保護者の方の言葉が印象に残った。

◎ 話し合い活動に参加し、生徒の意見を聞き、私自身の「気づき」にもなりました。家に帰ってからも話の続きを食事の時にしました。

◎ いつも見かける中学生の考えがしっかりしていることに感心しました。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

こうした取組を行うことで埼玉県学力・学習状況調査における「規律ある態度」に関する質問では変容が見られた。以下は、「相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができる」という質問に対して、「よくできる」「だいたいできる」と回答した割合の推移である。

学年 \ 年	令和6年5月	令和7年1月
青学年(現1学年)	97.8%	89.8%
赤学年(現2学年)	90.2%	88.7%
緑学年(現3学年)	95.8%	96.0%

また、「先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができますか」という「よくできる」「だいたいできる」と回答した割合の推移である。

学年 \ 年	令和6年5月	令和7年1月
青学年(現1学年)	91.3%	88.9%
赤学年(現2学年)	84.8%	89.8%
緑学年(現3学年)	93.8%	91.0%

話し合い活動を継続して取り組み、自他の意見や考えの共通点や相違点を「知る」ことで、互いの個性や多様性を「認め合う」力につながっていると考えられる。

さらに、教育活動に関わる保護者による学校評価においても変容がみられる。

〈様式２〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

質問項目	令和６年度７月	令和６年度１２月	比較増減
お子さんは、学校へすすんで登校している	９５％	９６％	＋１％
お子さんは、授業に意欲的に取り組んでいる	８９％	９１％	＋２％
お子さんは、以前より家庭学習を計画的に取り組んでいる	７６％	８３％	＋６％
お子さんは、学校行事に積極的に参加している	９３％	９７％	＋４％

上記は、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した割合である。保護者から見ても主体性（「すすんで」「意欲的」）や自制する力（「計画的」）などに変容がみられたことがうかがえる。

(2) 課題

課題としては、「時間を守る」や「あいさつ」などの質問項目において、大きな変容は見られない。

期 質問項目	時	令和６年５月	令和７年１月
授業や活動の始まる時刻を守ることができていますか		７７％	８３％
机やロッカーの中、身の回りの整理整頓をすることができていますか		４６％	４５％
名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事をすることができていますか		６１％	６０％
進んで掃除や美化活動に取り組み、学校をきれいにすることができていますか		６４％	６５％

※「道徳についてのアンケート」より 「できる」と回答した生徒の割合
課題解決として、「彩の国の道徳」を引き続き、各学年で年間指導計画の中に位置づけて活用を図る。また、一例として以下の教材を活用する。

「彩の国の道徳 自分を見つめて」埼玉県教育委員会	規律ある態度との関わり
「父の一言」	礼をただす
「上級学校を訪ねて」	時を守る
「次は清掃登山活動に挑戦だ」	場を清める

今後も継続して取り組み、希望をもってよりよく生きようとする生徒の育成に努めていく。